

15 人 間

総合的な学習 「人間」領域

1. ねらい

「人間」領域では、学習内容の設定にあたって、全体を「自分自身を見つめる場」と「他者との関わりの中で学ぶ場」の2つの側面からとらえて、ねらいを設定した。

人と人の関わりを通して、自分自身を見つめ、人間として共によりよく生きようとする子どもを育てる。

低学年	身近な人たちとの関わりの中で、自分のよさに気づき、自分の思いや考えを表現しようとする。
中学年	学校や地域など、身近な集団の中で、お互いのよさを認め、自分らしさを発揮しようとする。
高学年	多様な人々との関わりの中で、国際的な視野に立って、身近なところから自分のよさを伸ばしていこうとする。

2. 学習を構成する上での基本的な考え方

(1) 学習内容の設定にあたって

子どもたちの措かれている状況や、将来の社会変化を考慮したとき、「人間」領域で取り組むべき学習内容は多岐にわたる。「自分自身を見つめる場」では、命の尊厳や人間の成長そのものについてさまざまな学習が求められる。「他者との関わりの中で学ぶ場」では、子どもの生活基盤である「家庭」から、友人・学校・地域といった「身近な場」、さらには「国際的な視野」へと広がる幅のある学習活動が考えられる。

今年度の「人間」領域の学習に取り組むにあたっては、子どもたちの措かれている状況を、次のようにとらえている。

今の子どもたちは、少子化・学力優先の気風からか、人と人との関わりが薄いと言われる。また、物事にじっくり取り組んだり、自分自身を見つめるゆとりも少なくなってきたとも言われている。

勿論、本校の子どもたちも例外ではない。に本校は校区が広いため、自分の身近な地域の友だちと一緒に遊んだり、活動したりする機会が少なくなりがちである。また、遊び方を見ても、ゲーム機を使うひとり遊びが中心となりがちである。校内でもボール運動（球技）以外の群遊びをしている姿が減る傾向にある。

一方、子どもたちの明るく人なつこい笑顔からは、人と触れ合いたい、関わり合いたいという気持ちが強く伝わってくる。子どもたちは他者との関わり方がよくわからないだけ

	自分を見つめる	他者との関わりから		国際
	命・成長	家庭	身近な人(友・学校・地域)	
低	◎	◎	○	○
中	◎	◎	◎	○
高	◎	◎	◎	◎

で、むしろ他者との関わりを強く求めているのではないかと感じる。他者との関わりの中で、安らぎを感じる場・ほっとできる場を求めているのではないだろうか。

「人間」領域では、このような子どもたちの実態をもとに、本年度は、身近な人との関わりの中で学ぶことができる学習を考えた。そういった関わり合いの中で、自分自身を見つめ、命の尊厳を感じ、生きている実感や成長の喜びを味わうことができるようにしたい。

本年度の学習を基盤とし、国際的な視野に立って、さまざまな人々と自然な関わりをもち、自分自身を見つめることができるようにしていきたい。

(2) 学習活動で大切にしたいこと

学習の中で子どもたちが、幅広い年齢層の人々や、さまざまな興味のもち方・考え方・思いなどにふれ、その生き方・生き様を感じとることができるような場を設定していきたい。またそこで、自分自身の自立・成長を自ら実感できるようにしていきたい。そのためには、お互いの思いを出し合い、自分らしさが発揮できる、できるだけ自然な関わりが必要である。そこで、「遊び」の要素を取り入れた活動を重視して、次のように設定した。

	1年 (10)	学級などを中心とした日常的な取り組み 特活・学活・道徳・教科の中で	2年 (10)
ねらい	○身近な人と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○6年生と一緒に学び、生活することの楽しさを味わう。		○身近な人と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
活動事例	「いっしょにあそぼう」 「6ねんせいといっしょ」 ・あそびをおしえよう。 ・あそびをおしえてもらおう。 ・あそびをかんがえよう。 ・おたのしみかいをしよう。		「いっしょにあそぼう」 ・あそびをおしえよう。 ・あそびをおしえてもらおう。 ・あそびをかんがえよう。 ・あそびはっぴょう会をしよう。
	3年 (15)		4年 (15)
ねらい	○共通の目的に向かう活動を通して、お互いの思いに気づき、共によりよいものを創り上げていこうとする。		○みんなで自分たちの成長を祝う活動を通して、自分の姿をふりかえるとともに、将来への夢を広げる。 ○お互いのよさを認め、成長を喜び合う。
活動事例	「ぼくとわたしのゆめの遊園地をつくろう」 ・他学年、他クラス ・保護者（参観／PTCなど） ・地域		「1／2成人式を祝おう」 ・保護者からの一言 ・写真展 ・保護者への感謝状 ・みんなから一言 ・「10年後のわたしへ」手紙
	5年 (10)		6年 (10)
ねらい	○地域で活動する人たちとのふれあいを通して、より豊かに生きようとする姿勢に気づく。		○1年生と共に生活することを通して、自分をふりかえり、自分の成長に気づく。 ○卒業後の自分の生活に見通しをもつことができるようにする。
活動事例	「公民館活動に参加しよう」 ・仁保公民館の活動 ・それぞれの地域の公民館活動 ・PTA同好会 ・子ども会 ・ボランティア活動		「1年生とくらそう」 ・1年生と暮らしの計画を立てる。 ・1年生の時間割に沿った生活。 ・1年生の先生になろう。 「中学校に行こう」 ・東雲中体験入学や行事への参加

以上のような見通しのもとに、取り組んだ実践のうち、低学年・中学年・高学年からそれぞれ1事例を取り上げ、紹介したい。